

環境建築見学会

去る1月31日、名古屋市内にて、JIA三重の研究社会活動委員会・建築環境まちづくり部会主催の「環境建築見学会」が開催されました。これは、「環境に配慮した建築を見学することで、「建築」の魅力や意義を再発見するとともに、「環境」に関する見識を深め、さらに会員同士の交流を深める機会とする」という趣旨で、今回は二つの自然素材を活用した建物を見学させて頂きました。

タマディック名古屋ビル

名古屋市中区に建つ坂茂建築設計による地上8階、地下1階の木質免振構造オフィスビル。国産杉材のCLT(直交集成板)を、構造用木材・仕上げ材・型枠として利用するなど、鉄筋コンクリート造とハイブリッドでそれぞれの強度・耐火性・意匠性などの特徴を生かした使い方となっています。内観では、天井や階段などへの木材の利用に加え、紙管の家具やフィンランド大使公認のオフィスサウナなど木質の優しい質感が表現され、オフィス空間としての快適性が随所に感じられました。外観としては、全体をガラスのカーテンウォールで覆うことにより、木部の耐候性の維持に加え、この建物の特徴や企業の姿勢も表現されていました。



タマディック名古屋ビル



見学会の様子



浅沼組名古屋支店

浅沼組名古屋支店改修PJ

名古屋市中村区に建つ築30年の自社ビルの改修で、設計は川島範久建築設計事務所+浅沼組。浅沼組の目指す「人間にも地球にもよい循環」をつくる「GOOD CYCLE BUILDING」のフラッグシップとして、既存躯体を活用し、リサイクル材や自然素材を利用することにより、新築と比べて製造・建設時のCO₂排出量は約85%削減したとのこと。また、外壁や躯体の補修により、耐久性向上や長寿命化に加えて外皮性能を向上させ、高効率設備の導入と合わせて運用時のCO₂排出量を旧社屋の50%以下にし、ZEBreadyを達成されています。こうした性能的な成果もさることながら、様々な個所で設計者ならではのアイデアやクラ

フトマンシップが発揮され、自然素材の温かみとともに作り手としての想いが伝わる空間となっています。外観の丸柱は、1本の杉から取れる最大限の径の丸太を利用して、上階に行くにつれて径が細くなり、製材時に発生する端材を最小限にすると同時に、木が自然に立つ姿が象徴的に表現されています。このファサードは、今後の企業の目指す方向性を示すのみならず、街のアクセントとしての景観づくりにも貢献しています。

見学にあたり、正直なところ都市型の大規模な建物への木質材料の利用に関しては、個人的にはかなり懐疑的なところがありましたが、今回この二つの建物を見学させて頂き、木の持つ様々な特性・可能性を活かした設計の可能性を再確認することが出来ました。自然環境の循環につながる素材として、あらためて意識していきたいと思えます。



尚、見学会最後の目的である“会員同士の交流”については、3軒目の木製カウンターで締めくくりました。



久安 典之 (JIA三重)
久安典之建築研究所